

「今後の県立高校に関する意見交換会（第1回）」記録要旨【胆江ブロック】

平成27年5月20日（水）

奥州市役所江刺総合支所 4階大会議室

【奥州市江刺区 参加者】

- ・今後の子どもの人数の減少を考えると再編はやむを得ないと考えるが、実際に再編はいつから行うのか伺いたい。
- ・子ども達がどのように考えているのか、中学生の志望動向については、いつ頃、どのような調査を行うのか。

【 県教委 】

- ・今年度、地域の方々の意見を伺いながら10年先を見据えた計画を策定していくものであるが、再編の時期については、今後の意見交換の状況をみながら決定したい。再編計画では、前半5年間については具体的な計画を示す予定である。今年度は意見を集約しながら、具体化に向けて進めていく。
- ・子ども達の意見については中学生や実際に高校を選択した高校生の意見も含め、アンケートの実施方法について現在検討中である。アンケート結果を次の意見交換会等に情報提供できるスケジュールで進めていきたいと考えている。

【奥州市江刺区 参加者】

- ・地域検討会議で金ケ崎町の副町長が話していたが、実際の再編計画が示されてからでは意見を出しにくい。学級定員は35人、30人とか、6学級校を5学級にする等、もっと具体的な提案を出してもらわないと意見を出しにくい。
- ・県の総合教育会議で八重樫県教育委員長が県知事に対し、少人数学級に対する予算措置について発言していた。県教育委員会としても県単独での予算措置を是非進めてほしい。広大な県土という特色がある岩手の場合では、少人数の学校が出来るのはやむを得ない。他県では少人数学級を推進しているところもあるので、高等学校教育の在り方を考える際には予算のことも十分に検討してほしい。
- ・経済格差が教育格差に繋がっていると分析している教育学者が沢山いる。再編で地域に高校が無くなった場合、教育の機会の保障から、通学手段の確保に対し県が責任を持って保障してほしい。以前、統廃合された地域の市町村では予算が無く、結局は個人の負担となっている分が多いと聞く。検討会議での金ケ崎町副町長の話しでは、金ケ崎高校は金ケ崎駅と六原駅の間にあるので、町としてバスを運行してほしいとの要望があり検討しているそうである。
- ・概要版P5「地域社会の発展、震災復興に貢献できる人財を育成するため、地域産業の復興方向を念頭に置きながら、学科の配置を検討」とあるが現在は何を考えているのか。

【 県教委 】

- ・沿岸部における震災からの復興だけではなく、県央部から復興を支えるという意味で、農林水産業や商工業等、地域産業の振興方向を念頭において学科の配置を検討していく。パブリックコメントや在り方検討委員会では震災津波からの復興を考える学科を検討してはどうかという意見もあった。防災関連の学科については、教育課程や進路先、大学等の研究機関との連携、中学生の興味・関心

（次頁に続く）

を考慮した上でその設置の可能性について、様々な意見を聞きながら検討していきたい。

- ・通学支援については、それぞれの地域で交通の便や経費の負担状況も異なることから意見交換会等での意見を参考にしながら、制度について検討していく。前再編計画での通学支援では、旧市町村に学校が無くなる場合の統合において、利用可能な公共交通機関が無く市町村や保護者団体が通学バスを運行する場合に経費の半額を県が補助している。前例も参考にしながら今後の制度設計について検討していく。
- ・学級定員については、40人以下学級を県全体で導入しようとした場合、その経費が多額となることから、一部地域でも実施することができないかも含めて、その可能性について検討していく。実施している他県の教員配置状況等を十分考慮し、シミュレーションをしながら、予算の協議も含め、内部的な検討と並行してやっていきたい。次回の意見交換会では、県教委の検討の状況についても少し示せると思うので、各地域での会議と並行しながら進めていき、随時状況を報告したい。

【奥州市江刺区 参加者】

- ・昨年度の入試倍率は0.93倍で全国最低ではないか。全国统一学力テストの結果については、国語は全国平均ぐらいだが、算数・数学では学年が上がるとう順位は下がっている。高校入試の倍率が低いことで本当に勉強をしなければならない時期の勉強の意欲を削いでいるのではないか。大学進学の実績では、難関大学への合格者は年々減少傾向にあり、岩手大学の合格者についても県内出身者の割合が少ない状況にある。高校再編も大事だが県全体の学力向上という視点も持たなければならない。年々中学生の学力が下がっている実情を踏まえて、高校のあり方を考えることが重要ではないか。

【 県教委 】

- ・学力向上については高校再編による影響も考えられる。その他、教員が学力向上に向け努力しなければならない面もあるので努力していきたい。

【奥州市江刺区 参加者】

- ・英語が小学校5年生から必修になるが、江刺区には1学年2、3人の小学校が多数ある。中学校も統合した当初は適度な規模だったが、小規模化しつつあり、高校単独ではなく小中学校を含めた通学手段の確保を今後考えて行かなければならないのではないか。

【 県教委 】

- ・高校は小中学校のような義務教育ではないため、ここで考える通学支援については公共交通機関がなく、どうしても通えない場合であり、他地域との公平性も考慮し、地元市町村との連携しながら考えていくものである。必ずしも小中学校のエリアと高校のエリアが同じエリアにあるとも限らないが、市町村と相談していきたい。

【奥州市水沢区 参加者】

- ・前回の高校再編では母校の存続のため、再編反対活動を率先して行ったが、その後の状況を見ると少子化が進み、今後も更に減少するため、再編は致し方ないと考えている。競争率が低いから学力が下がっているのではないかという意見があったが、確かに東大、京大、東北大学の合格者が減っている。岩手の学力は全国最下位ではないか。小中学校の教育においては平等性、公平性も必要だと思うが、高校ではある程度競争原理も入れて積極的に学習させるという教育も必要だと考えている。

(次頁に続く)

【 県教委 】

- ・倍率について、前回の高校再編計画では、倍率が1.00を大きく割り込まないように調整をしていたが、現在は震災の影響も踏まえ、ブロック単位で考えるのではなく、学校ごとに欠員の状況を踏まえ学級数の調整を行っているところ。今後、再編計画を策定する中で、学級数調整についても併せて検討していくことから、そのことによって適切な倍率になっていくと考えている。学力向上に関しては入試倍率だけでなく、様々な取組みが必要なため、県教委では学力向上を専門とする部署も立ち上げ、小中高の連携について取り組んでいるところである。

【奥州市水沢区 参加者】

- ・入試倍率が低く、勉強しなくても入れる高校があるため、中学校でほとんど勉強せず、高校に入る生徒がいる。ある高校の教員は、レベルの高い大学を卒業し、夢を持って教員になったが、掛け算も分からない生徒を教えるのは虚しいと話していた。ある程度の競争は必要だと思うし、教員がやる気になるような学校教育の在り方も模索してほしい。

【 県教委 】

- ・入試倍率の話もあるが、倍率にかかわらず、入学した生徒に力をつけることは至上命題であり、しっかり果たしていきたいと考えており、一人ひとりの教員にもそのような自覚を持たせるよう努力していく。

【奥州市前沢区 参加者】

- ・現状の学校体制について、中学校と高校の間で授業についてお互いに研修する機会はあるのか。

【 県教委 】

- ・中高の交流については県の事業として英語、数学に関して、意見交換や授業参観をする中高合同の研修会を開き、取り組んでいる。今年は更に徹底するように中高、小中の連携を担当する部署も設置し取り組むことにしている。取組みの中では小中の全国学力調査、県独自の高校基礎学力調査のデータをお互いに提供し合って、学力向上のための対策を考えている。地域ごとに高校が中学校の教員を呼んで高校一年生の様子を見て、意見交換をする会等を開催している。中学校3年生を対象とした進路指導の一環として、高校が学校の特色、就職進学状況、学校行事の取組み等について説明する機会を設けている。中学校によっては部活動での合同練習をしたりすることもある。

【奥州市前沢区 参加者】

- ・中学校ではガイダンスや進路相談の時に、生徒に対し、この高校は良い、そこはダメというようなことを言っているらしい。そのため、地元の学校に入学しないことが問題になっているという地域の方の話がある。高校と中学校の交流がしっかりあれば、このような話は絶対出てこないと思うので徹底してほしい。少子化の影響で高校再編をするということであるが、学力だけでなく、生徒の個性を発揮する場が高校だと思うので、単に小規模校を規模の大きい高校へ統合させることの無いようにしてほしい。

【 県教委 】

- ・中学校の進路指導についてそのような噂を聞くが、中には、話に尾ひれがついて伝わる面も無きにしもあらずで、正しい情報、学校の姿を理解していただく必要がある。もし、そのような話を聞いた場合には教育委員会事務局に情報提供していただきたい。

【奥州市水沢区 参加者】

- ・前の再編計画では商業高校と工業高校の統合の話があった。今後、商業と工業が統合したら岩谷堂
(次頁に続く)

高校のような総合学科高校になるのか。総合学科の評価は賛否両論あるが、大概是総合学科に対し批判的である。

- ・総合学科は流れとしてやむを得ないと考えているが、農業高校まで含めて水沢地区の専門高校の統合を考えているのか教えてほしい。

【 県教委 】

- ・学校・学科の配置については、「小規模な専門高校においては今後、総合的な専門高校としての設置を検討する等、教育環境の充実に努めます。」と専門高校の方向性の中で記載をしている。総合的な専門高校とは岩谷堂高校のような総合学科ではなく、工業、商業、農業それぞれの学科が複数併置されているような学校である。そのような学校にすると決めているわけではないが、地区における学科のニーズも踏まえながら考えていきたい。

【 県教委 】

- ・再編も仕方がないという意見もあったが、その中でどういった再編にしていけばよいかという御意見も伺いたい。例えば、釜石商工高校のように商業と工業が一緒になった学校もあるが、選択肢としてあくまでも商業、工業高校を独立させた方がよいのか、ある時期に統合してでも学校として維持した方がよいのかといった意見をお願いしたい。

【奥州市江刺区 参加者】

- ・障がいのある生徒が高校に進学する場合、障がいの程度等により自分が望まない学校へ入学する場合がある。例えば、2階に教室があり、階段しかない場合、車イスでは登れない。胆江地区では車イスで登校できる高校は1校しかない。全部の高校で設備があれば、どの生徒も希望する学校・学科で勉強できるので改善をお願いしたい。

【 県教委 】

- ・障がいのある生徒が高校を受検する際は事前に相談をしていただいて、どういった介護が必要なのか等を検討した上で、エレベータ・スロープの設置等バリアフリー化の対応はできる範囲でやっている。県内全ての高校でバリアフリー化することは難しい面もあるので、事前に相談を頂きながら進めている。中には希望する学校へ入学できない実態があるのかもしれないが、その都度、御相談いただきながら進めていきたい。

【奥州市水沢区 参加者】

- ・このような意見交換会があるのは知っていたが、開催日が分からず、ホームページをみたら今日だと分かって遅れてきた。たぶん市民の方は知らない人が多いと思う。胆江地区の将来像を考え、地元産業の関係者等がもっと出席をして、将来、胆江地区の子ども達がどういう人材になってほしいか、もっと広い意見を聞く場面があっていいと思う。ごく少数の意見が胆江地区の意見だと思われるのでは危険ではないか。少子化で仕方がないと思うが、仕方がないから再編するのではなく将来に夢のある高校教育を目指す再編計画を実施してほしい。仕方がないから数を減らすとか、志願者が少ないからではなく、10年後20年後のこの地区がどうあればよいかモデルを作って再編計画に取り掛かってほしい。もっと市民に周知して意見交換会を開いてほしい。

【 県教委 】

- ・周知について、実施が決まって周知期間が短かったので次回はそのことも十分配慮して設定していきたい。今日の意見交換会は、対象を指定しないで広く一般県民向けで開催している。これと併せて午前中に、市町村長、市町村教育長、産業関係者の代表、PTA関係、中学校長会長等の地域代

(次頁に続く)

表を対象とした検討会を実施した。周知については、皆さまに情報が伝わるような方法を検討していきたい。今回は検討委員会を午前中に開催した関係もあるので、意見交換会を午後にかかせていただいた。意見交換会の時間設定についても要望があれば伺いたい。

【奥州市江刺区 参加者】

- ・もっとたくさんの人に参加してもらわないと、少人数では胆江地区の意見として偏ってしまうと思う。夜の時間に設定し、小・中・幼稚園の保護者の方々がより多く参加し、地域の将来像に対する意見を聞けるようにしてほしい。